

大きな成長を願って

新ひだか町静内地区川合牧野団地へ入牧始まる

新ひだか町静内の川合牧野団地において、5月13日に静内酪農振興会（会長 小池孝義さん）の生産者を始め、各関係機関により乳牛の入牧が行われました。

牧野団地は92ヘクタールの広大な敷地に、牛のストレスを軽減し、健康的な育成、丈夫で元気な仔牛を生ませることを目的に行っており、今年も振興会生産者7戸から集められた生後6ヶ月から24ヶ月齢までの乳牛89頭が入牧しました。

牧野入牧前には2〜3日かけて、牧区の維持管理の為に広大な敷地の有刺鉄線の修理や伸びた木の枝の伐採、老朽化した牛捕獲用の柵やゲートなどの修理を利用生産者自ら行っており、作業中に熊を目撃し駆除を依頼した年もあり、牧野の奥の水源地では熊捕獲用の罠を設置し、毎年のように捕獲しております。

入牧の際には事前に各生産者が行った妊娠鑑定に加え、コンディションチェックの為の採血や体重測定も実施し、牧区分けも月齢の近い牛ごとに実施しており、小さい牛が大きい牛にいじめられることがなくなり、ストレス低減に効果を発揮しています。



上の写真の有刺鉄線は利用者自ら直しております。毎年、鹿などの野生動物に切断されており、入牧中の牛についても個体によっては切断し逃走します。

入牧後も利用生産者が中心となり、忙しい牧草時期の合間で関係機関協力の元、2週間ないし3週間に1回、夕二除けの薬の塗布、妊娠鑑定、体調不良牛の採血を実施しています。また牛の食べる草が不足しないよう、牛たちを定期的に空いている牧区に移動します。

新ひだか町の町有牧野は三石地区を含め複数ありますが、中には利用者の減少等で閉鎖したものもあります。川合牧野は利用生産者の積極的な協力体制により維持運営されております。

前年度は体調不良での退牧は無く、1頭当たり152kgの体重増、受胎率は72%と、とても良い結果が得られました。

今年度も牧野での放牧は10月末まで行われる予定であり、退牧時までに1頭当たり150kg以上の体重増を目指します。



体重測定風景



近隣の牧場まで逃走したこともあります。見つけたら優しく迎えてあげてください。ご理解・ご協力お願い致します。



道路を歩かせての牧区移動もあり距離があるため、かなりの重労働になります。また、個体によっては人間の制止を振り切り逃走します。